

NO. 45 2000. 5 (株)九州地域計画研究所

**************************************
NETWORK
モノつくり型産業が減って、産業の仕組みを
つくるフロント型産業の就業者が大幅に増えている
~セダン型産業構造モデルでみる15年間の変化~ 2
高齢者はどこを終の住処としていくのだろうか 2
~高齢化した大規模団地はどうなるのか~ 5
久留米地域の地場産業を考え
〜筑後の地酒と藍胎漆器について〜 7 日本が誇る古伊万里コレクター
ー SAS 例会(地域ゼミ)
日産炭地から脱産炭地へ
· ·
公園づくりワークショップ② ~イメージを形に
お菓子の道の今むかし
~佐賀市・第1回柳町文化講座から14
南区まちづくりフォーラム
~9年目になって初めて自分の住んでいる地域のことを考えた …16
所員近況
自然発生的に分科会ができたおもしろい会
じねん亭の迷惑便の迷惑文
新人紹介
************************************
本・BOOKS
「長崎ぶらぶら節」なかにし礼著
第8回よかネットパーティーのご案内

#### モノつくり型産業が減って、産業の仕組みをつくるフロント型産業の就業者が大幅に増えている 全国 九州·山口 【図の見方】 単位:人口1,000人あたり従業者数 240 ,1981年 (996**年** 1981年 1981年 1996年 495 528 ①+②+③ ①+②**+**③ 490 474 110 120 3 2 0 **3137 2275 178 3166 2254 1109 3144 2259 171 ②231 ①94 3 2 1** 福岡県 佐賀県 票翻费 1981年 1996年 1981年 1981年 1996年 240 470 487 494 466 100 10 3135 2284 ()68 **3151 2239 3138 2237 169** (3)165 (2)259 (1)91 (2)217 (1)101 沖縄県 鹿児島県 熊本県 1996年 1996年 1981年 1981年 1996Œ 484 436 486 491 471 378 180 120 **2236** (1)86 1981年(昭和56年)と1996年(平成8年)のセダン型産業構造モデルを比較すると、人口1,000人当たりの就業者は上図の全地域で増加

※詳しくは2頁以降参照

している。②基幹型産業が減少しているが、①フロント型産業と③生活サポート型産業は増加している。

2010~2015年の風景VI・

## モノつくり型産業が減って、産業の仕組みをつくる フロント型産業の就業者が大幅に増えている

~セダン型産業構造モデルでみる15年間の変化~

糸乘 貞喜

< 科学技術への投資の意味は、科学技術がわれわれ に豊かさをもたらすということ>

「時代を超えて広く受け入れられ、少なくとも部分的には正しい仮説がある。その一つは、国による科学技術への投資と国レベルの生産性との間には深い関係があるという考え方である。つまり科学が技術を生み、それが私たちの生活を豊かにしてくれるというのである」。この文章は「研究開発のマネージメントー歴史と省察ー」(ハンス・マーク著,三田出版会)の一節である。ハンス・マークさんはテキサス大学で、大学経営のトータルマネージメントシステムをつくられた方で、この本は十年ほど前に出版されている。

私は当時すでに、もっとわかりやすい産業分類づく りに興味をもっていたので、この言葉に感心した。と いうより、私にとって好都合だと思った。短絡してい うと、科学技術への投資=科学技術分野の就業者増→ 生産性の向上→一人あたりの富の増加→豊かな国へ、と いうことになる。フロント型産業=次の時代のための 産業、という私の考えの応援団の役割を果たしてくれた。 <今後の地域づくりのカギは、フロント型産業への投資> セダン型産業構造モデルについて簡単におさらいをする と、1・2・3次というペティ・クラーク型の分類は、今や産 業構造の説明能力を失っているので、現代に合った分類が高 必要である。新しい分類として提案しているのがセダン型 モデルで、①フロント型産業は、地域の次の稼ぎの主体を 作り出す産業である。②基幹型産業は、今日現在の豊かさ を作り出す仕事で、農林水産業、製造業、エネルギー産業な どモノを新しくつくったり加工したり、あるいはそれらを

「現在」が豊かになる。③生活サポート型産業は、面倒を見る産業で、人口に比例して必要となる。

このモデルで見ると、当該地域・都市がどんな分野に力を入れているか、今後衰退するのか、豊かになるのかがわかりやすい。全般的に①フロント型産業の就業者は増加傾向であり、②基幹型産業は比率も絶対数も減っている。

よかネット42号でもふれたが、日本全体として見ると、就業者は減っていくことになる。その時、①、②、③の分野のどこが影響をうけるのか、今後検討を要する問題である。

<フロント型産業への投資は、ニードでもあり、利益の源泉でもある>

三分野の就業者数の変化を、実際の数値で見ることにする。全国の全業種の1,000人当たりの就業者数は、この15年間(1981~1996年)に490人から528人に増えている。伸び率にして7.8%である。最近失業率が高くなったということが問題視されているが、国の豊かさ度を、人口当たりの就業者率で表現してよいということにすると(家族の中で、働く人の数が多いと豊かになれるということと同じ概念)、15年で7.8%豊かになっているのであるから、失業率は、増えた失業者のみに対する打撃であって、社会全体は数パーセント豊かになっていることになる。しかし、この1,000人当たり就業者数も、2000年から2005年頃にかけて減少に向かうのである。

作り出す産業である。②基幹型産業は、今日現在の豊かさ 産業構造の変化についてふれると、①、②、③分野を作り出す仕事で、農林水産業、製造業、エネルギー産業な の比は全国 1981 年で 15.9:56.1:28.0 であったのが、 どモノを新しくつくったり加工したり、あるいはそれらを 1996 年では 20.6:48.1:31.4 になっている。特筆す直接的に支える卸売りなどで、この分野が充実していると、 べきは①部門の急伸と②部門の 50 %割れである。

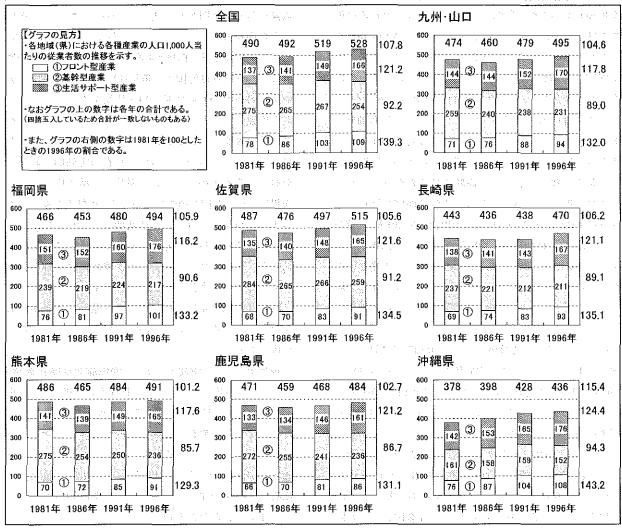
#### セダン型産業モデルの産業分類について

注1:データで事業所統計と国勢調査からとしたのは、国勢調査のみでは中分類のデータが揃わないためである。

注2:第2部門の「A~C農林漁業」は「従業地における農業、林業、漁業就業者」(日7年国勢調査)の数値を用いている。これには「主に仕事」「家事のほか仕事」「通学のかたわら仕事」「休業者」が含まれている。「主に仕事」のみ取り出すならば 70.8%(全国)となる。また、「主に仕事」のうち70歳以上が19.1%となる。したがって農林漁業の就業者数のうち「70歳未満の主に仕事」は57%程度となる。判断の上では、農林漁業全体が少ないので問題になるほどではないが、このことを含んで全体の数値を見ていただきたい。

注3:その他の気になることを挙げておくと、「教育」のうちフロントらしい「高等教育機関」「専修学校・各種学校」「博物館・美術館」の従業者は23.1%である。とすればそれ以外は「生活サポート産業」ということになるが、生活サポートに該当する部分は人口に比例していると考えられるので、少しでも地域の違いが出る方が良いと考えて「フロント型」に入れた。「金融保険業」も生活サポートの側面が強いともいえるが、教育と同じような意味で「フロント型」に入れている。また、「物品賃貸業」も「基幹型」と「生活サポート型」にほぼ2分されるが、新しい産業でもあり、ベンチャービジネスの支えにもなりやすい業種であるので「フロント型」に入れている。

図表 1. セダン型モデル(フロント型産業・基幹型産業・生活サポート型産業)の人口 1,000 人当たりの従業者数の推移



図表2. フロント型産業のうち、専門サービス業、情報サービス業、学術研究機関の各県比較

		- 4	erra i	1	全国	'81年	'86年	'91年	'96年	九州・山口	'81年	'86年	,91年	'96年
tyrin i dana	1 4 5 4				専門	8.15	10.03	13.01	14.38	専門	6.71	7.80	9.89	11.40
	1 1 4 5 34		100		サービス	100.0	123.1	159.6	176.4	サービス	100.0	116.3	147.6	170.1
		: .	4.	N.	情報	2.38	3.93	6.84	6.43	情報	1.03	1.80	3.43	3.03
					サービス	100.0	164.9	287.1	269.6	サービス	100.0	175.4	333.9	295.6
上段:人口1,000人当たりの就業者数					学術	1.35	1.59	1.68	2.11	学術	0.63	0.64	0.68	0.77
下段:1981年を100としたときの各年の割合					研究機関	100.0	117.8	123.9	155.9	研究機関	100.0	101.6	108.1	121.6
福岡県	'81年	'86年	'91年	,96年	佐賀県	'81年	'86年	,91年	'96年	長崎県	'81年	'86年	'91年	,96年
	<u> </u>	9.57	12.49		専門		6.13	7.95	8.81	専門	5.19	6.40	7.85	9.46
専門	8.31			14.10		6.05			I	1			1	1
サービス	100.0	115.3	150.3	169.7	サービス	100.0	101.4		145.6	サービス	100.0	123.3	151.2	182.3
情報	1.71	3.17	5.89	5.36	情報	0.59	0.86	1.29	1.76	情報	0.68	1.02	1.92	1.69
サービス	100.0	185.5	344.7	313.6	サービス	100.0	144.6	217.4	296.1	サービス	100.0	151.4	284.1	250.8
学術	0.48	0.45	0.43	0.55	学術	0.70	0.66	0.76	0.72	学術	0.88	0.87	0.99	0.90
研究機関	100.0	92.5	89.4	113.4	研究機関	100.0	94.2	107.3	102.1	研究機関	100.0	98.0	111.5	101.9
熊本県	'81年	'86年	,91年	'96年	鹿児島県	81年	86年	91年	'96年	沖縄県	'81年	'86年	'91年	'96年
専門	6.01	7.36	8.77	10.07	専門	5.48	6.67	8.70	10.36	専門	8.45	10.79	13.85	15.78
サービス	100.0	122.4	145.7	167.4	サービス	100.0	121.7	158.9	189.1	サービス	100.0	127.7	163.9	186.7
情報	0.71	1.34	3.29	2.21	情報	0.66	1.11	2.23	1.65	情報	0.83	1.87	3.22	3.01
サービス	100.0	189.6	465.2	312.1	サービス	100.0	166.8	336.1	248.9	サービス	100.0	224.6	386.4	361.8
学術	0.56	0.56	0.68	0.76	学術	0.81	0.82	0.80	1.30	学術	0.45	0.48	0.48	0.58
研究機関	100.0	100.0	120.6	135.0	研究機関	100.0	101.3	98.4	160.0	研究機関	100.0	106.1	106.9	128.3
												•		

経年の伸び率を見ると、①部門が15年で39.3%就業者を増加しているが、②部門では7.8%減で、全産業の就業者数は増加させているにもかかわらず、人口1,000人当たり275人から254人へと21人減少させている。よく新聞で使われている「モノばなれ」とか「情報化社会」といったことが、数字で裏打ちされているようだ。

一方③部門も21.2%増加している。これは面倒見産業、日常生活サポート産業と見られるが、なぜ1,000人当たり137人から166人へと増えているかが問題となる。世上一般に言われる、高齢化社会だからと言うことでは説明しにくい面がある。それは面倒を見られる人数は1,000人当たり510人(1981年の490人の逆算)から472人(1996年の528人の逆算)へと38人(7.5%)減っているからである。つまりサポート産業の就業者が面倒を見るのには、働かない人だけでなく、働いている人も含めた1,000人が対象となっていると見るべきなのだろう。

図を見ていただくと分かるように、③部門の人数は、全国も九州も各県も、ほとんど同数となっている。1,000人の面倒を見るには全国どこでも同じだけの手間がかかるということなのだろう。数字をあげると、1981年には137人(全国)から151人(福岡県)の差しかない。

このことは1996年となっても変わらない。地域的バラツキは1,000人当たり165人から176人の11人でしかなく、全国的に一層平準化されていると見られる。

以上まとめて言いなおしてみると、「全国どこでも同 じ程度に面倒見のための就業者は必要で、生活のパター ンが平準化しているのではないか。一方年々、手間の かかり具合は増加してきている」ということであろう。 よく考えてみると、このことは「暮らしやすくなって よいことだ」とはいいにくい。

心配性の見方をすれば、1981年から1996年にかけて特段生活サポートが行きとどいたとも思わないし、ワークシェアリング(仕事の分かちあい)の一種で、③部門が生産性の低い就業を受け入れているのかもしれない。あるいは容易に③部門に就業できることによって、①・②部門へのシフトが押さえられているのかもしれない。このことを実証するのは困難だが、③部門の就業者が急増しているのは1991年から96年にかけてであることをみると、バブル以後の財政赤字の急増とタイミングが合っている。この③部門の増加は気味の悪いぐらい急なもので、全国のデータでいうと、1991

年から96年への変化では①部門が6人増、②部門が13 人滅に対し③部門が17人増えているのである。どの県 でも傾向が似ているというのも、気になることである。

日本の生産年齢人口は4年連続で減少した。国連の推計に寄れば日本は外国から毎年60万人の移民を受け入れていけば今の生産年齢人口を維持できるという。これが困難であるとすれば、問題に対応するためには、公共事業(税金)による建設業のサポートをやめなければならない。それができれば、現在の実効的に必要な分野への労働力のシフトと、財政赤字積み増しによる次世代へのツケ回しの減少という2つの効果が期待できると言われている(日本経済新聞00.3.29「鐘」)

こんな文章を見ながら思い出したのは上記の数字であった。念のため書きそえると、建設業は②部門に入っているので、③部門の急増の枠外ではある。

①~③部門の年次変化について各県などの動向にも ふれたいが、省略をして、図表を見ていただくことを お願いしたい。

<専門サービス、情報サービス、学術研究機関の急増> ①フロント産業のエンジンを構成すると思われる「専門サービス業、情報サービス業、学術研究機関就業者」 についての年次変化を見ることにする。

全国ベースで見ると専門サービスは1981年から98年の15年間に1.8倍に、情報サービスは2.7倍に、学術研究機関は1.6倍となっている。産業の「情報化・サービス化」と言われたものを示している。

各県とも同じ様な傾向を示しているが、少々残念なのは、九州の中心である福岡県でさえも、全国平均より少ないと言うことである。特に学術研究機関就業者数は、全国平均とかなりにへだたりがある。気にはなるが、細かい分類になると統計上の誤差も起こりやすいので、それほど気にすることもないかもしれない。

以上のデータは、とりあえず、我々のような小事務所でも手配できるもので整理したので、本来ならば大学の教員・職員についての比較も必要であろう。しかし、ここでは「教育」というくくりで幼稚園・小学校などと一緒になっているので、変化が現れにくかった。そのため、上記の3項目にしたのである。将来の問題としては、教育を分けて大学などの高等教育機関は①部門に、その他を③部門にと言うことも考えられる。

少々、今のところわれわれの手に余るので不十分な 分析でお許しを頂きたい。 (いとのり さだよし)

# 高齢者はどこを終の住処としていくのだろうか 2

~高齢化した大規模団地はどうなるのか~

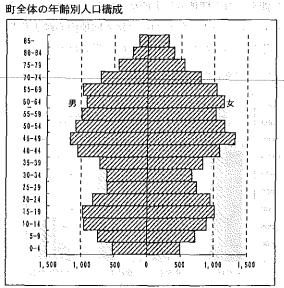
龍雄 山田

北九州市に近い岡垣町のまちづくりのお手伝いして いる中で、基礎調査として地区別の年齢別人口を整理 していると、高齢化率43.1%という地区内人口のほぼ 2人のうち1人が高齢者であるという地区がみられた。

同じ町内でも過疎化している漁村地域での高齢化率 は約26%程度であることから、この地区が如何に高齢 化が進展しているかが分かる。この地区は昭和32年8 月に炭鉱閉山するまでは中央部にボタ山が位置し、そ の周辺に炭鉱住宅が建ち並んでいたところであったが、 岡垣町が北九州市のベットタウンとしての役割が大き くなった昭和40年半ば頃に民間主体による戸建て住宅 団地(以下「K団地」)として開発(全体で約2,000戸) されたところである。昭和40年後半~50年代初頭にか けて新日鐵関係(旧八幡製鉄)の方が多く居住したら しい。当時世帯主が30~40歳であったファミリー世帯 が短期間に入居した訳であるが、時間の経過と共に子 供たちは故郷を巣立っていき、定年退職した方が多く 残ってしまい、自然と高齢者の街になってしまったと ころである。 は、塩料・高脂(物) もので、 出土・湿流に

| そこで、今回は、このように一挙に高齢化したK団 地をケーススタディとして、その未来予想図と再生に ついて考えてみた。

#### 町全体の年齢別人口構成



## ●高台の開発で道路条件が悪い団地

当団地の開発計画をした時期には開発許可制度がな かったことから、区画道路の幅員も側溝を入れて4m程 度(現規定では原則6m)であり、道路縦断勾配も9% 以上のところがみられる。また、斜面地に開発した宅 地部分では駐車場出入口のみが水平で急勾配の道路と なっており、最近の住宅団地に比べると道路条件とし ては悪いところが多く、昨今の車利用中心のライフス タイルに適応できていない団地といえよう。

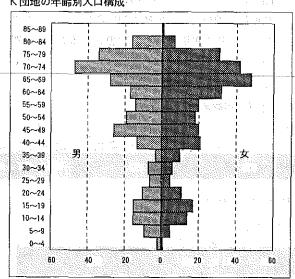
## ●既に「住宅を引き継ぐ人がいない」が1割

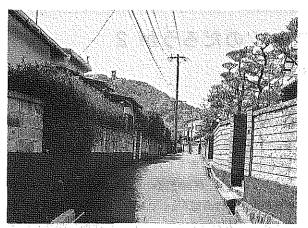
このK団地については、今後、町としても何か手だ てを検討していく必要があるだろうということもあり、 この団地の高齢者が将来の住まいのあり方や引継ぎに ついてどのように考えているかを調べるため、区長さ んを通じて高齢者がいると思われる世帯を400世帯を 抽出し、アンケート調査を行った。(回収率226票)

このアンケート結果で特に注目する点としては、次 のようなことがあげられ、これを基に地区の10年後の 未来予想図を考えてみたい。

・高齢者がいる世帯のうち単身世帯が約1割、夫婦高齢 者が約6割、親(高齢者)と子が約2割となっている。

#### K団地の年齢別人口構成



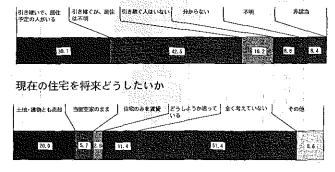


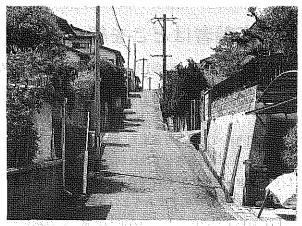
側溝を入れてぎりぎり4mの道路

- →夫婦高齢者は、いずれ単身者となる可能性が高い ため、かなり単身高齢者が増えるであろう。
- ・現在の住宅の引継者がいるかどうかでは、「現時点で引き継ぐ人がいない」1割、「引き継ぐが居住するか」とうかは不明」約3割となっている。
- →この地区の高齢者がいる世帯は約1,200~1,300世帯であることから、中古住宅として売却しあるいは賃貸ができなければ、このうち約1割にあたる120~130世帯が確実に空家や空き地になる可能性がある。また、不明の世帯も約3割いるので、空家・空き地となる世帯はさらに増えるかもしれいない。
- ・引き継ぐ人がいない方に対して、いずれは住宅をどうしたいのかを聞くと「全く考えていないす約5割、「土地・建物とも売却したい」約2割、「当面空家のまま」約6%、「住宅のみ賃貸」約3%となっている。
  - →当団地は区画道路幅員も4mと狭く、特に斜面地に 開発しているところでは道路が段状となっており、 利便性が悪いため、宅地売却は不利である。この ため、売却や賃貸意向は2~3割とあるものの、買 い手や借りてが付かず、空家となるところも出て

くるのではないだろうか。

## 現在の住宅の引継者がいるかどうか





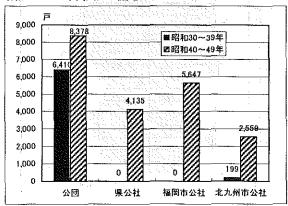
駐車場出入口のみが水平となった急勾配の道路

## 

昭和30~40年代に公的機関によって開発された大規模団地(100戸以上を対象)が福岡県下にどの程度であるか示したのが下図である。民間デベロッパーの開発が入っていないため、この時期に供給された大規模開発の全体戸数はわかならい。しかし、都市基盤整備公団(旧住宅・都市整備公団)と住宅供給公社の公的な機関による供給戸数は約27,000戸である。

この27,000戸のうち高齢者世帯は、高陽団地のケースでみると6割程度となる。そこで、公的開発団地の約16,000世帯(27,000×0.6)を県下の戸建て住宅に住む高齢者世帯、約378,000世帯(平成7年国勢調査)に対してみると約4%である。さらに都市部に住む高齢者世帯が約7割であるので、都市部の高齢者世帯に対しては約6%を占めるわけであるが、50年代から60年代に開発された団地も将来的には同じように一挙に高齢化していまうと、将来的に戸建て団地内高齢者世帯の比率はさらに高まってくるものと思われる。

## 昭和30~40年代開発の団地



## ●再生のためには総合的な検討が必要

このような高齢化した団地を再生させるためには、中 古住宅として流通しやすいような仕組みづくりなどの ソフト施策と道路の角切り整備などのハード施策両面 を含めた総合的な検討が必要である。

ここでK団地をモデルにし、少し現況の問題として解決する方法、将来に向けての再生の方法について若干提案したい。

- ○日常的な暮らしや緊急時の不安を感じている単身 高齢者や夫婦高齢者への対応
- →社協や地域による見回りサービスあるいは福祉 サイドでサービスしている緊急通報サービスを 拡充するなどの措置を行う。
  - →空き地となったところを町の方で先行買収し、シ ルバーハウジングやグループハウジングなど、安 心できる公的住宅を供給する。
  - ○高台にあり、買い物や病院に行くのに不便である、 ・ または身体に負担がかかる。
- →隣接している駅前商店街との連携を図る。例えば現在、各地で行われているFAX宅配サービスなどが考えられる。

団地と商店街等の一角に拠点を置き、電動スクー ター等の無料サービスを行う。(現在、広島市

楽々園地区で実施されている)

- →平成14年からのバス規制の緩和措置を受け、小型のワンコインバスを走らせる
- ○区画道路が4m(場所によっては4m未満あり)と 狭く、離合がしづらい。
  - →狭い区画道路のところでは部分的に一方通行を することを検討する。
  - →空き地を利用して部分的に離合スペースを確保 する。
- ○中古物件として売却したいが、売却できるかどうか不安である。
- →角切りや側溝の蓋かけなどの最低限の整備を行う。アンケートでみたように「引き継ぐ人がいない」住宅では、町が買い上げて公的住宅を供給する。あるいは1人住まいの高齢者で、将来に不安に対する支援として借り上げて町単独の町営住宅として低家賃で希望者に貸すことなども考えられる。

以上、昭和30~40年代に開発された大規模住宅団地の問題と今後の解決策を考えてみたわけであるが、同じような問題を抱えている団地は、全国どこでも起こってると思われる。

これ以外に何かアイデアがある方は是非ご意見をい ただきたい。 (やまだ たつお)

## 久留米地域の地場産業を考える

~筑後の地酒と籃胎漆器について~

山田 龍雄・小田 好一

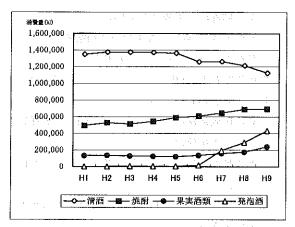
旧来から久留米市をはじめ筑後地域には、久留米絣、 地酒、籃胎漆器など多種多様な地場産業があり、これ らの地場産業を発展、強化していくことを目的に昭和 56年11月に久留米地域地場産業委振興センター(以下 「地場産くるめ」)が設立された。今回、この「地場産 くるめ」により、久留米絣、酒造、籃胎漆器、手漉き 和紙、機械和紙の5業種についての地場産業振興のため の調査・計画のお手伝いをすることとなり、今後の地 場産業について考えさせられる点が多々あったことか ら、筑後の地酒と籃胎漆器について少しポイントを絞 って整理してみた。

#### ●地場の人に知られ、飲まれる酒造づくりを!

私は元々焼酎派であるので、清酒についてはあまり明るい方ではなかったが、今回、酒造の方を担当となり、清酒業界の厳しい状況を知るとともに清酒の奥深さと魅力も勉強させていただいた。

## 〈消費量が低迷つづけている清酒業界〉

全国の清酒消費数量をみると平成3年あたりから一貫して減少傾向にある。酒全体の消費量をみると950~960万KLと、ここ2~3年は横這い状況であるにもかかわらず、清酒のみの減少幅が大きい。一方、消費量を伸ばしている酒類といえば、焼酎と低アルコール系の発泡酒、また最近ではワインブームにのった果実酒類であり、特に発泡酒系の伸びは著しい。筑後地域内の清酒製成量をみると、久留米地域では某メーカーが北九州コカ・コーラーボトリングと業務提携したことによって販売量を伸ばした影響で、一時期高くなっているが、平成8~9年は全地区とも減少傾向にある。



全国の清酒消費量の推移

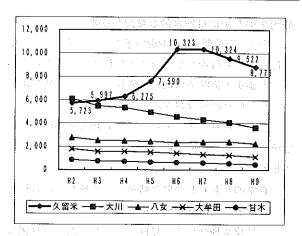
〈地酒低迷の原因は、消費者に近づくために取り組みがなされなかったことが大きい〉

清酒低迷の理由を酒造業者や酒販店の方に聞いてみ ると、単に競合品の台頭や若い人の清酒離れといった 単純な問題ではなく、複雑な要素が絡んでいるようだ。 特に福岡の地酒業界は、桶取引きといって原料米の 割り当てがあったことから中小メーカーの原酒を大手 メーカーが買い取りをしていたため、消費者の顔をみ ないままで、これまで来たことが大きな問題であった ようだ。ある地酒メーカーの方にお聞きしたときも「い ままで消費者に近づいてこなかったことが、清酒離れ の大きな要因である」と答えられていた。しかし、こ のメーカーでは、地域の方との協力のもとに毎年3月に 蔵開きをしており、今年で16回目とのことであった。 実際に蔵開きにいくと、蔵元の敷地内に婦人会などの 団体が屋台を出し、結構賑わっていた。また、このメー カーでは①顧客名簿をコンピューター管理し、消費者 からの直接注文、②近くの農家と提携し、田植えから 絞りまでの体験教室の開催(今年で2年目)など、地域 と消費者とのネットワークをつくる努力をされている。

# 〈大手メーカーでは既に清酒と料理との取り合わせ研究をしている〉

3月末に福岡市天神のアクロスで開催されている「文化であい塾」で「日本酒を知る」というテーマでの会があったので、参加してみた。

セミナーの中では利酒もできることもあり、始まるころには既に定員70名程度の会場は満席となったが、参加者の年齢階層は20~60歳代と幅広く、女性も1/3程度はいたようだ。



筑後地域内の清酒課税数量の推移

このセミナーでは、大手メーカーの営業の方が講師となり、特に清酒の美味しい飲み方、料理との組み合わせについて話をして下さった。既にこのメーカーでは平成4年頃から「日本酒と料理の相性」の研究を行い、「日本醸造学会」や「日本料理科学会」などに発表している。いただいたパンフレットには、メーカーの酒別にどのような料理が合うのかの一覧表もあり、消費者にとってはありがたいことである。

#### 〈消費者に近づくための取り組みについて〉

ヒアリングをした酒造メーカーの方も「ちゃんと消費者に答えられる清酒小売店がいなくなったことも清酒消費量減少の原因であるのではないか、鍋料理に合うのはこの酒であるとか、この酒はどんな料理に合うのかを教えてあげるような酒販店が少なくなった」とといっていたことなどを考えると、地酒の酒造メーカーや酒販店含めて消費者ニーズに応えられる取り組みが求められる。そこで、次のような取り組みを提案させていただいたが、これらが「地場産くるめ」を中心として実現されていくことを期待したいものである。

- ・福岡県内の蔵元のうち約6割近くが筑後地区に 集中しているが、知名度は意外と低いように感 しる。そこで、「筑後の酒」をPR するために統 ーラベルやパンフレットを作成する。
- ・「筑後の酒」の PR と販売促進を兼ねたフェスタ を開催する。ここでは筑後の酒の歴史や酒の美 味しい飲み方や料理との組み合わせセミナーを 開催する
- ・全国的には発泡酒系の清酒も製造されてきているので、有志を募り新製品の開発に取り組む。
- 筑後地域の料理とお酒との組み合わせてを考える等

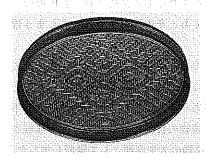
#### ●中国製に負けるな!久留米籃胎漆器

籃胎漆器というものをご存じであろうか。正直言って私は、この仕事を担当するまで見たことはあっただろうが、それが籃胎漆器であるということは認識していなかった。

私の担当は籃胎漆器業界の振興策を提案で、籃胎漆器についていろいろと調査する機会があったので、それらをかいつまんで紹介しようと思う。 〈籃胎漆器とは〉

まず、籃胎漆器とは何かを紹介する。籃胎漆器とは 竹で編んだ籠に何層にも色の異なる漆(最近はウレタ ン樹脂が多い)を塗り、それを研ぎ出しして、竹の編 み目に何層もの漆が重なった層を見せ、模様としてい る漆器である。材質が竹であるので非常に軽くて丈夫 である。工程に手間暇がかかっているため安くはない。 直径35cm程度の盆で6,000~7,000円程度である。お 茶の入った湯飲みなど運ぶ際、上にのせているものが、 ただでさえ重たいのに、その上盆が重いと運びづらく なってしまう。そこで便利なのが籃胎漆器である。非 常に軽いため、運ぶのが便利である。ただ、この軽さ だけを求めるとプラスチックで代用が可能になる。し かし、籃胎漆器の消費者のほとんどは自然素材にこだ わり、プラスチックの安っぽさを嫌う方々である。籃 胎漆器は久留米(福岡県)で発達し、久留米市内の籃 胎漆器業者は4社、このほか八女市内に2社、元々久留米 地域にいた職人が別府で工房を持ち、生産している業 者が1社、また、良質の漆が採れる輪島地域、良質な竹 が採れる高松地域にはそれぞれ籃胎漆器の作家がいる。 计控制性点 人名德拉地 人物独立 〈籃胎漆器の歴史〉

- ・籃胎漆器は古くからは中国で発達しており、宮城県 の是川遺跡から中国製の古い籃胎漆器が発掘されて いる。
- ・1700年代、久留米藩主が京都の名高い塗り師を招 き、久留米を漆器の産地とした。



籃胎漆器製品の定番

- ・また、久留米地域では良質な竹が採れたため籃胎漆 器の産地としての下地が整っていた。
- ・1800年代後半、ある茶人が竹籠に漆が塗られた中 国の籠を見つけ、どうにかして復元しようと名竹細 工師、名塗り師に依頼してできあがった。
- ・明治後期頃には生産額が増え、久留米地域の米の生産の半分にも達し、欧州やアジア諸国にも輸出されていた。

## 〈中国製がかなり入り込んできている〉

籃胎漆器の価格は中国製が日本に出回る昭和40年代前までは業者間で決められていたが、それ以降、価格破壊が起こりはじめた。籃胎漆器業者のうち、全工程を自社工場で行う業者は2社(久留米、八女各1社)のみである。この他の業者は中国より竹籠、または半完成品を輸入し、最終の仕上げを国内で行っている。

最近では中国製籃胎漆器が100円ショップにも並ぶようになっている。

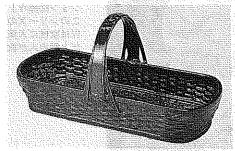
一方、中国の籃胎漆器でも質の高いものがあり、国内のものとほとんど変わらず、国内の業者のものより少し安く売られている。最終仕上げのみ国内で行う業者もこれらに似た価格で売られることが多い。こうなると、全工程を国内で行う業者は職人の人件費だけで中国製の籃胎漆器以上の価格になってしまい、価格競争にうち勝つのは大変である。

#### 〈籃胎漆器振興に向けて〉 こうきょう こうさん おおり

籃胎漆器の消費者は少し高い価格のせいでもあるが50~60代以上の世代がほとんどである。今の若い方は、存在自体知らないことが多いのではないだろうか。まず、籃胎漆器を知ってもらうことが大切である。また、使い方の提案も必要である。

少し洒落たインテリアショップではものを陳列する だけでなく、テーブル、イスからランチョンマット、食

器、花卉など様々なアイテムを使ってダイニングやり



購入した人の創意工夫でいろんな使い方ができる (フランスパン入れ、フォーク・スプーン入れなど)

ビングをつくりだしており、それぞれのアイテムの使い方、見せ方、組み合わせの仕方を提案している。籃胎漆器もしかり、ただ陳列するのではなく、どのように使うかのヒントとなるような見せ方を考えていく必要があると思われる。

最近では、何に使うか分からないような品物が売れてるそうだ。消費者それぞれに使い方を委ねている。 籃胎漆器についてこんなに偉そうなことを書いてきたが、一人暮らしの私には日常生活で必要な籃胎漆器製品がなかなか見つからず、まだ何も買っていない。まずは、この「何に使うか分からないもの」で気に入ったものがあれば買ってみたいと思う。

(やまだ たつお・おだ こういち)

## 日本が誇る古伊万里コレクター

柴田明彦氏(佐賀県立九州陶磁文化館柴田夫妻コレクション)

澤谷 真紀子

世界有数の古伊万里コレクターである柴田明彦さん (現在、東京にて食品関連の会社を経営)のお話をうかがいました。有田にある佐賀県立九州陶磁文化館(以下九陶)で人気の古伊万里の数々は柴田さんが寄贈されたものです。寄贈数は現在1万点を数え、内7000点が九陶で発表されています。また、約1000点は大英博物館に寄贈され、海外の人々の目を楽しませています。九陶では「柴田夫妻コレクション」として常時展示されており、これまで、計6回の展示品の発表(柴田夫妻コレクション I~VI)を行っています。その都度、図録が出版されているのですが、手元にお持ちの古伊万里とこの図録を対照すれば、それが何年頃に作られたものか、だいたいの予想はつくと思います。

ちなみに、柴田夫妻は有田の名誉町民であり、九陶



「柴田夫妻コレクション図録IV」 このシリーズの IVは女性に人気 だと館の人が教 えてくれた。 の特別研究員でもあります。月に何度かは九州にいらっしゃると聞き、当社にも立ち寄っていただきました。さて、伊万里焼とは有田焼のことを指しますが、特に江戸期の有田焼は古伊万里と呼ばれています。佐賀藩有田郷で1615年頃に始まった我国最初の磁器は、伊万里港から全国の消費地に船積みされ、船積み港の名を取って「伊万里」として知られるようになりました。有田焼という名で知られるようになったのは、1867年のパリ万国博覧会に有田焼の名で出品してからのことです。

余談ですが、当社も、有田町のまちづくりのお手伝いをさせていただいている関係で、柴田さんには、町の基幹産業(これがほとんどだが)である有田焼が凋落傾向にある中、どのように町の活性化と有田焼の振興を図っていったらよいか。など、相談にのっていただいていました。また、この不況期と産業の転換を図らなければ生き残れない状況の中、有田がどのように進むべきなのか、当社も含め、柴田さんも随分と心を砕いておられます。

柴田さんのお話を、所員だけで聞くにはあまりにももったいないので、以前より私も含め当社では4名が参加している、議論ができ、建設的な意見が多く、おもしろい会である「SAS(サスティナブル・アナリスト・ソサイアティの略、異業(人)種の集まり)」のメンバーと共にうかがうことにしました。

#### ●有田焼で地域の歴史(年代)がわかる

柴田さんが有田焼に興味を持ち始めたのが15~6才 くらいだそうです。それから約45年間、柴田夫妻コレ クションの一万点にも及ぶ収集を行い、現在もその数 は増え続けています。特にその収集のすばらしさは、江 戸時代の有田焼を、その様式や年代別に系統立てて集 めたことにあります。一般的なコレクションは、収集 家自身の主観で集められたものが多いため、柴田さん のそれとはコンセプトが全く違うそうです。

柴田さんは、焼物を手にとると、まずは器の裏面や 仕上げを見るそうです。45年間も研究し続けている方 ですから、それがあまりにも習慣化され、有田焼の写 っている写真を見ても、その写真を裏返してしまう程 だそうです。

有田焼はご存じの通り、朝鮮の陶工季参平によって 広められたと伝えられています。有田では、李参平を 敬い、毎年、陶祖祭りを行っているほどです。朝鮮半 島の陶工によって焼物の技術は朝鮮から日本へ移転さ れ、有田のまちは焼物の大生産地として発展しました。 しかし、この産業は藩の統制下で行われていたため、素 材から形、色に至るまで藩による厳しい管理がなされ ていたそうです。

一方、当時の日本各地には中国磁器が流通し人気を博しており、厚くて重い有田焼は、白くて軽い中国磁器に較べて品質が劣り人気がなかったそうです。しかし、藩や有田の地域自体が市場ニーズに合う製品の研究に力を注ぎ、1650年頃、中国型の技術導入を行ったこと(それ以前は朝鮮半島型の技術だった)で、有田焼流行の糸口が開けたそうです。もう一つ、有田焼の需要がグンと上がったきっかけがあります。中国の景徳鎮で内乱が起こり、東南アジアやヨーロッパ向け陶磁器の輸出がストップ、有田がそれにとって変わったことです。これが、伊万里の港から積み出され、長崎から輸出された古伊万里と呼ばれた有田焼です。

この頃、いかに古伊万里が世界中の憧れの的であったかを実証する話があります。当社Iが頻繁に通っていた中州の「ドレスデン(民間の美術館でお酒が飲めた店)」には、古伊万里風の、磁器で出来た和服の人形があったそうです。この日本女性もどきは、お尻が「プリッ」と出っ張っていて、海外で、古伊万里を似せて作ったということを物語っていたそうです。

1659年、ヨーロッパへ向けて大量に輸出が始まったことにより、有田の地域にはコストや納期意識が生まれ、量産技術の向上、分業制の確立など、江戸時代最大の工業都市として発展しました。

また、多くの好みの異なる地域へ出荷したことで、多くの消費地ニーズを把握、それに対し柔軟に対応した ため、有田焼は、その時代のニーズにあわせて様々な 様式上の特徴や違いがあるそうです。

このような、有田焼の年代毎の違いに着目し、集められたのが柴田夫妻コレクションという訳です。この系統だったコレクションのお陰で、現在、江戸時代の遺跡の発掘現場などでは、その時代を特定することも可能になっています。江戸時代の遺構の発掘現場では有田焼が出てくるので、10年単位で年代の特定できる有田焼を時間の物差しとして遺跡自体の年代も特定できます。まさに、柴田さんが収集をするという行為が「有田焼を通して時代の空白を埋めていく」ということになっています。

●有田の町をこれだけ思う人が他にいるだろうか 有田焼にのめり込んでおられる柴田さんは、有田の 町、まちづくりにも深く関わっています。それは、有 田という町全体が、有田焼の一大企業(有田焼の製造、梱包、販売でしか就業がほとんどない。よかネット NO35参照)であるために、有田のまち無くしては有田焼は語れず、有田焼無くしては有田のまちは語れないという一体的な関係があるからかもしれません。話を聞き終わった参加者達からは質問が相次ぎ、一つの質問に対して十以上のことを語る柴田さんからは、有田に対する思いがビンビンと伝わってきました。以下に参加者からの質問・提案に対して柴田さんが回答されたことについて示します。

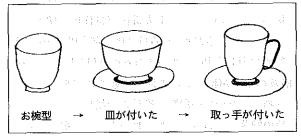
A:全国の骨董品屋さんとFAXやインターネットを通 して連絡を密にしているのと、九州近世陶磁学会会 員を通じて全国の江戸時代の遺構の発掘情報を収 集するなど、常に連絡を取り合っています。九州近 世陶磁学会では工事中に出土した遺跡などの年代 判定も求められれば行っています。

Q:SASで有田焼の体験や有田の街並みについて説明を受けながら巡りましたが、そのような企画、例えば福岡の中高年の女性向けにエージェントがツアーを組むなどということは出来ないでしょうか。また、小学校の遠足や、修学旅行先としても考えられないでしょうか?

A:地元の住民は、有田の街並みや、雰囲気、体験などについて、評価が低いように感じられます。 反対に、地域外、特に都会の人からの評価は高く、フリーでいらっしゃる方もいます。 しかし、小売店などでも、外からの客を受け入れる体制を整えているところは少ない(例えば土・日曜日に空いている店が少ない等) ため、都会からの客が有田に来て、本当に満足して帰っているのか気になっています。都会のエージェントと組んで、ミニ陶器市のようなこ

御五のエークエントで何かく( くに同語中のの) など

ョーロッパ最初の磁器はコーヒーカップは有田焼だった。 1659年アラビア向け輸出品はコーヒーカップが半分以上 左より1650年頃、1680年頃、1730年頃



Q:現在の食器全般についてはどうですか?

A:現在、世界中に流通している中級以下の食器の65% は中国製となっています。また、ウェッジウッドや ジノリといったヨーロッパの高級食器の価格が低下 し、デパートの陳列品だけみると、有田焼より買いや すい価格となっています。さらに、磁器からガラス 食器へ嗜好が変化しているという点も有田焼にはつ らい環境となっています。この環境を乗り切るには、 やはり有田自体が変わるしわるしかないのでしょう。

参考:国内に流通している食器の比率

(日常生活用食器) 和食器:洋食器=1:9 (業務用食器) 和食器:洋食器=2:1

Q:現在、柴田さんが考えていることを教えて下さい? A:全国の歴史民俗資料館に、その地域に伝世した有田焼を並べて下さいといっています。これは地域発の有田焼を通した生活文化の情報発信となると考えています。また、有田焼の歴史がわかるようなビデオを制作中で、有田の中心街のあり方なども検討しています。

その他、トンパイ塀の由来や、破格の値段で売られている有田焼について、産地の見分け方、家庭内に食器があふれている問題など、質問がつきることはありませんでした。さらに、場所を変えて行われた後半戦も、これまでにないような盛り上がりを見せていました。私は、ただ、ただ、柴田さんの有田への思いに感動し、こんなに思ってくれる人がいる有田だから、それを上回る思いを地元の人が持った時にすばらしい地域になるだろう、と感じました。(さわたに、まきこ)

## 旧産炭地から脱産炭地へ

小田。好一

去年から、旧産炭地のある町でまちづくり計画のお手伝いをしている。こうした計画では住民、職員を巻き込むことが大事だが、最近は計画の策定段階から「職員参加」「住民参加」を取り入れる市町村が増えている。 〈職員の多くが抱いている住民に対する印象〉

計画づくりの早い段階に職員と一緒にまちづくりの ための勉強会を行った。町の良いところ、悪いところ をみんなで出して、議論し合った。そこで出された意 見の中には「住民の行政依存が強くて困る」という内 容の意見が多くみられた。

こうした意見が出されるのには次のような時代背景が影響しているようである。かつて石炭の最盛期に、この町には大きな炭鉱があった。この大きな炭鉱を持つ会社は福利厚生が充実しており、町の街灯の電球を変えるのことを1つとってみても、炭鉱会社の方で対応してくれたそうだ。しかし石炭の衰退で炭鉱も閉山することになり、一部の人の間では、その依存の対象が行政へ向けられたのだろうという意見があった。

でしかし、それでも炭鉱が閉山してから30年以上経っている。

〈多くの職員の印象とは違い、頑張っている団体もいる〉 勉強会を行って数日後、地域で活動している様々な 団体と、これからのまちづくりについて意見を交換する 機会があった。職員との勉強会では「住民の行政依存」 に関する意見が多かったので、どんな意見が出るのか 不安であった。しかし結果は全く予想と反していた。 「自分たちでできることを考え、自分たちにできない ことについては行政にバックアップをお願いする」と いった内容を語ったところがほとんどである。

#### 〈非常に盛り上がったまちづくり部会発表会〉

去る3月30日に住民の方、職員の方が総勢約50名が 集まって今後のまちづくりについて話し合ってきた「ま ちづくり部会」の発表会を行った。「まちづくり部会」 は去年末から5回にわたって行われ、住環境、産業、福 祉、教育文化、行政の5つの部会に分かれ、各部会です ぐにでも実現しそうなプロジェクトを考えようという ものであった。私は産業部会に属していたがそこで挙 げられたプロジェクトは「朝雨の開催」である。町内 には炭鉱全盛期に栄えた商店街が3つあったが、現在は どこも衰退している。そこで挙げられたのが町の商業、 農業を活気づける朝市の開催である。途中、話がとて も大きくなったこともあったが最終的には非常に具体的 になった。有志によって4月からもこのまちづくり部会 が継続されることになっているが、産業部会では現在、 朝市を出されている方に今後、部会に参加していただき、 朝市成功のための勉強をしようということになった。

教育文化部会では「大人が遊ぶ」というプロジェクト を挙げていた。子どもの教育が町の大きな課題なのだ が、子どもを育成するために、まず大人が知り合おう



町長立候補をまねたパフォーマンス

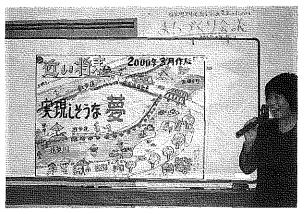
ということである。大人が集まって、腹を割って話せるようにするには、まず仲良くなることが必要である。そのために、今の大人も忘れた「遊び」をきっかけに集まろう。これが「大人が遊ぶ」の趣旨である。大人達のコミュニティを形成して、それから子どもの教育問題を考えていく。学校の先生や、役場の職員も参加してもらう。

行政部会では行政と住民との話し合いの場を持つこと、住民が何を求めているかを把握することがテーマになっていた。当日、発表された方は発表会に参加されていた町長を前にして町長選のごとくタスキを掛けて発表するパフォーマンスを披露された。

また、部会の発表以外に、個人で町に対する思いを 語ってもらう場を設けた。その話の一部を紹介する。

- ・「息子が進学のため3日後に家を出る。息子が生まれ育った故郷として誇りの持てる町にしていきたい。安心して戻ってこれるような町にしたい」
- ・「(町を縦断する)・遠賀川のまわりに次のような夢を 抱いています。」

THE PROPERTY LAND CONTRACTORS



遠賀川周辺に抱く大きな夢

最後に何人かの方に感想を言っていただいた。お年を召した元教師の方は「このまちづくり(総合)計画は10年先を見据えた計画であることを知りませんでした。10年後は私がどうなってるか分かりませんが、この発表会に参加して、10年後を絶対見届けたいと思いました。こんなすてきな生き甲斐をくれたまちづくり部会に感謝します」とおっしゃった。

涙腺の弱い私はかなりジーンときていた。

当初の心配とは裏腹に盛り上がりを見せ、発表会が 終わった後もしばらく話し込んでいる人がいた。

一昔前は本当に職員の印象通りの住民だったのかもしれない。だが、最近の長期的な不況や、すぐそこに迫る産炭六法の失効などから、地域の人々の地域づくりに対する意識に変化があったのかもしれない。長引く不況と補助金カットなどのマイナス要因が、住民自らが町をつくっていこうという自立の方向に目を向けるきっかけになったのならば、結果として良いことなのかと思った次第である。 (おだ こういち)

# 公園づくりワークショップ②

~イメージを形に~

伊藤 聡

前号で宮田町の子どもたちによる公園づくりワークショップの経過報告を行ったが、その続き。

前回までに「鳥」「魚」「炭鉱」「昔話」の4つのチームに分かれ、それぞれ地域の自然を観察したり、昔のことを勉強したり、現在に伝わるものを見に行ったりして公園づくりにつながるテーマ探しを行った。

我々グラウンドワーク福岡のメンバーと一緒に活動するのは土曜日などを利用して数週間に1回のスケジュールだが、その間に子どもたちのいる笠松小学校では総合学習の授業の一環として作業が進められているので楽である、いやスムーズに進行できる。

## ●トロッコやほこら、水辺などを提案

2月下旬の第3回目では、公園の中に具体的に何を作りたいかを話し合った。各チーム小5から中1までいるが、みんなでひとつの案を出すチームもあれば、学年ごとに案を出すチームもあった。

炭鉱チームは、炭鉱が栄えていたことを示す記念碑



公園の模型-手前は池のアイデア3<mark>案</mark>、奥は現地模型。 スケールがバラバラだが。

と、自分たちで乗って動かすことのできるトロッコを 提案。昔話チームは、いろんな形のほこらや切り株を 利用したベンチを提案。魚チームは魚の住みやすい池 を、子供が水で遊べる案と遊べない案、中の島に人が 渡れる案と人は渡れずに自然の宝庫にする案、丸い池 や魚の形をした池など様々な考えで3種類の池を提案。 鳥チームは、鳥が住みやすい木や、水が飲めて餌もと れる池、池に流れ込むせせらぎ、それに観察小屋を提 案。それらを紙粘土でイメージ模型にして発表した。

#### ●魚と鳥のたたかい

ここでひとつ気付くのは、魚チームと鳥チームが水 辺の提案でバッティングしていることである。鳥チームの発表のときに、魚チームの小学生の女の子が中学 生に対し勇気を絞って意見を言った。そのやりとり。

小学生「私たちがせっかく育でる魚を餌にしないで ぼしい」

中学生「鳥が生きていくには餌は必要です」 小学生「保護して大事にしたい魚もいます」 中学生「それが生態系だからしかたありません」

お互いにそれぞれの自然観があって、考えた上に具体 的な提案を出している。それを小学生と中学生が学年を 超えて意見をたたかわせている。あんまりやると、小学

生の方が言いくるめられて泣き出すのではないかという心配もしながら、緊迫感のある対話を見ていた。結論は 出ず、持ち越しになったが、アイデアの出しっぱなしで は終わりそうにない雰囲気にこれからの期待が持てた。

## ●水はどうやって流すか

3月下旬、第4回目で計画づくりは一旦区切りをつけることになるが、最後は現地で提案ごとの場所決めを行った。

その発表のとき、今度は大人から少し難しい(意地 悪な?)質問が飛んだ。例えば池をつくるチームに、 「池の水はどうするのですか」

「……雨水をためます」

「せせらぎの水はどこから持ってくるのですか」

「……ポンプで池の水を汲み上げます」

「ポンプはどうやって動かすのですか」

「……太陽電池で動くようにします」

中学生がたじたじになりながら、周りの大人の助け も借りて答えていた。今の中学生には難しくても、い ずれ誰かが考えなければならない問題がまだ沢山ある と知っただけでも良かったと思う。

## ●時間はかかっても、人の輪を広げながら

ここまでは気持ちをイメージにしてさらに形で表す 作業だった。これからは実際にどうするか、そして汗 を流す段階につなげていく。大人の関わり方も重要に なってくるところである。

年度が変わってからは次の段階に取り掛かっていく 予定で、小学校の方も引き続き学校の活動として取り 組んでいく。小学6年生は中学生になりクラブ活動など で忙しくなるが、新しい小学5年生が活動に加わる。公 園づくりは人の手で少しずつ、数年かけて進めていこ うという構想でもあるので、その間に輪が広がって、沢 山の人の手のかかった公園になることと思う。

サード 自動 「第一できり」(いとう) さとし)

## お菓子の道の今むかし

~佐賀市・第1回柳町文化講座から

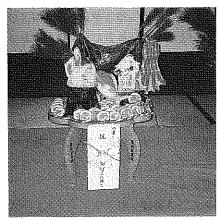
尾崎 正利

佐賀市は江戸時代に長崎街道が市街地を東西に縦貫 していたため、明治時代以降に形成された市街地の中 でも、柳町地区には旧古賀銀行、旧三省銀行などをは じめ古い建物がかたまった通りがある。

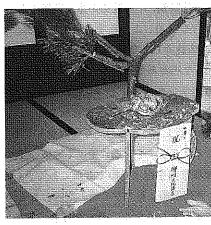


会場の雰囲気

よかネット No.45 2000.5



飴で創られた 寿賀台(壊す前)



壊した後参加者 に配られた

そこの柳町で、市民と佐賀のことを一緒に考えていく文化講座を開催したいという企画を、昨年末に佐賀市文化課の香月恭彦さんからお聞きした。その後、テマや場所の相談など、ほとんど手伝いらしきこともできずに過ごし、3月20日の開催を迎えた。

## ●柳町でお菓子をテーマに文化交流会

この日は90名近い市民の参加があったのだが、主な催しは、1.肥前から九州各地に伝わるお菓子を取り寄せたので食べながら講師の話を聞く、2.寿賀台という伝統的な飾り砂糖菓子を見て最後にうち壊す、3.佐賀のお菓子を食べながら市民の皆さん同士が交流の輪を広げる、などとなっていた。

会場は旧古賀家といわれるかつての銀行の経営者宅 で現在は市教育委員会が管理している。和室のふすま を取り外して30畳程の広間が作られていた。

目にも鮮やかな「寿賀台」は前日に伊万里市にお住まいの職人さんがやって来てその場でこしらえたもの。 太平洋戦争以前の日本には結婚式にデコレーションケーキなどといった風習はなかったが、伊万里を中心とした肥前一帯では、砂糖を細工した金花糖(きんかとう)、飴に手を加えた有平糖(あるへいとう)を組み



その日配られた16種類のお菓子

合わせて、浦島太郎や恵比寿様、鯉の滝登りなどをつくって台上に積み上げたこの菓子が、祝いの席に欠かせない彩りを添えていたという。そして宴席の最後には砕いて出席者に分けていたところなど、結婚式のケーキとほとんど同じである。

この日の寿賀台は「天女の羽衣」を題材に、天女、鯛、羽衣などを模した菓子が積み上げられていた。前日に職人さんの作業を一部始終見ていた香月さんの感想では「飴が固まるタイミング、色が出るタイミングなど、あの間合いは神業だった」らしい。

#### ●肥前は日本の砂糖菓子の登竜門?

この日の講師は佐賀の小城町にお住まいの村岡安廣 さんである。村岡さんは当社のよかネットパーティー にもご出席いただき、昨年は大宰府で学研都市シンポ ジウムを開催した折にも大変地域に密着した視点での ご意見をいただくなど、お世話になっている。

講演の内容は、肥前における砂糖やお菓子の歴史と 伝統、海外との共通することなどであった。興味深かったのは、米粉の使い方など中国の福建省以南の地域 のお菓子と九州のお菓子にいくつも共通点があること や、村岡さん自信がポルトガルまで足を運んで九州の お菓子と類似したものを見つけた話などであった。

また、森永製菓の創業者・森永太一郎、江崎グリコ 栄養の創業者・江崎利一など、現在も庶民に親しまれ る大手製菓メーカーの創業者が、ともに佐賀出身であ ることなどは、参加者の中でも案外知らない人が多い ようにもみえた。さしずめ肥前は日本の砂糖菓子の登 竜門とでもいうような感じである。

## ●寿賀台も全て参加者に配られた

今回、参加者は資料を一人一袋ずつもらっていたが、 袋の中には、講話の中に登場する九州のお菓子が16種 類も入っている。袋から取り出して並べると、私が今まで食べたことのないようなものもあった。今回の文化講座では参加費を1人1000円いただいたが、来ていたた人は満足していた模様。

参加者は冒頭に書いたように90名前後。中心的な年 齢層は60代前後で、ご夫婦やお友達連れでの参加も多 いようだ。

講演の後で交流会となり、寿賀台が木槌で叩き壊された、あまりにキレイだったので壊す前に記念写真を 一枚とばかりにカメラを構える人が多かった。

●街のいいところを、みんなで探し、街が元気になれば

今回の講座は第1回目であったが、香月さんのお話では、第2回目以降も取り上げたいテーマがいくつかあるもよう。お客さんの反応も随分良かったようだ。

佐賀の街はいろんな要素を持っているが(前号でも 書評で取り上げたように本当に沢山の資源がある)、これまでは十分に生かし切れていないように思える。

今回、講座には90名前後の人が押し掛けて来たが、旧古賀家の建物がある柳町のすぐ西側には佐賀市の広大な商店街がある。中心市街地活性化基本計画が策定されて再開発ビルもできたが、空き店舗は一段と増えているようだ。街でモノを買うという行為と、街で楽しむという行為がかなり乖離しているような気がしてならない。

一これからもこうした街遊びを続けながら、『市民のみんなに街に注目されるようなことが地道に必要だということを痛感した。』 (おざきまさとし)

## 南区まちづくりフォーラム

9年目になって初めて

自分の住んでいる地域のことを考えた

小田 好一

私は福岡市南区に在住している。一人暮らしである。 一人で暮らしていると、よほどアンテナを張らない限 り、住んでいる地域とのつながりを持つことはない。

#### ●初めて自分の住んでいる地域のことを考えた。

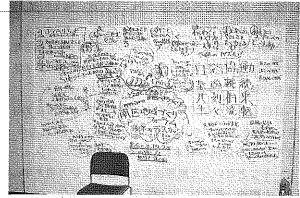
去年、私の友人が南区のまちづくりに携わっていることもあって、南区まちづくり推進協議会が主催する「まちづくり人養成塾」に参加する機会があった。参加者は既にまちづくりに携わっている方、これから携わ

ろうとしている方、南区に引っ越しをしてきて南区のことを良く知りたいと思っている方など、様々であった。この養成塾は南区の中心である大橋という街を舞台にして、「ワークショップ形式」によってこの街で何ができるか考えようというものであった。大橋の核となる西鉄大橋駅は乗降客5万人で福岡市の副都心となっている。この街周辺には大学、短大、高校が立地しており、学生街となっている。ここで挙げられたプロジェクトを少し紹介する。

- ○「スイスイスムーズ駐輪・車プロジェクト」→大橋駅周辺は不法駐輪、不法駐車が多く問題となっている。それを解消しようとするものである。
- ○「イケテル商店魅力UPプロジェクト」→お店は数 多いが、どんな店があるのか知られていない場合 が多い。お店ランキングなどつくり、もっとPR の場を増やしていこうとするものである。
- ○「キャピキャピ芸工大とまちづくりプロジェクト」 →大学生のエネルギーを有効に使って地域のイベントや地域整備を行っていく計画である。(※芸工大:九州芸術工科大学の略。南区のまちづくりに参加している学生、教官が比較的多い)南区に9年住んでいて初めて、南区のことを考える機会であった。

#### ●住民主導のまちづくり先進地である福岡市南区

南区ではこの他、様々なまちづくり活動の主催、まちづくり団体への財政支援など行っている。これらの報告会として、去る3月25日(土)に「南区まちづくりフォーラム」が行われた。今年で4回目となるが今年のテーマは「どこまでできる?南区のまちづくり」であった。前半は各種活動の報告であったが、興味があったのは、後半のパネルディスカッションであった。パネラー



パネルディスカッションの内容を目に見える形で残す役割を する、ファシリテーショングラフィック。私の友人作

は南区地域づくり活動団体の代表で構成されていた。 司会進行役にアナウンサー、コーディネーターには千 葉大学の延藤安弘先生がおられた。

団体代表の方の悩みには次のようなものも挙がっていた。

- ・区からの助成金は3年限りである。言ってみればさなぎになったところで助成が切れる。助成金が切れた後のアフターフォローについて考えてほしい。
  - ・花いっぱい活動を行っている。花を植える際には ウーロン茶1杯で1日働いてもらうことになり、主 催者側としては手伝ってもらう人たちに対して肩 身が狭い。

財政問題に限って挙げれば以上のようなものである。

#### ●まちづくりのツボがたくさん出された

これらの、意見が出されて延藤先生の一言は「カネをもらえないとやれない活動はやめてしまえ」という趣旨のことだった。後に会場から、「先生のおっしゃるとおりです。」との声があった。私はいくつかのまちづくり計画に携わり、まちづくり団体へのヒアリング等をしたことがあるが、永久に財政的援助を受けられる保証のある団体には、適切な使われ方がなされていない場合もあった。私も、もちろん先生の意見に賛同した。

この他、まちづくりのキーワードとして先生が挙げておられたのは、「活動団体は危機感がバネとなって伸びる」、「活動の持続に必要なのは楽しさとあそびごころ」「カネが無ければカネが取れる工夫が必要」であった。

最後に先生が出されたまちづくりのキーワードが面 白かったので紹介させていただく。

「ま」あるい人と人との三世代交流を促してみよう 「知(ち)」恵とユーモアとパフォーマンスに満ちた活動 「ズ(づ)」キンと心に響く命への共感の関係づくり

「苦(く)」労と対立をエネルギーにする

「理(り)」念、理屈でなくワクワクアンドリーズナブル

「美(び)」と楽しさと優しさを求め続ける

「永(と)」遠なる継続活動

以上、まちづくりのツボを抑えてかつ、頭文字が「まちづくりびと」になっていたので感心した。

仕事以外ではまちづくりにあまり参加したことがなかった私だが、何か自分にできることを探して参加してみたいと思ったフォーラムであった。

(おだ こういち)

## 所 員 近 況

#### **圏** 自然発生的に分科会ができたおもしろい会

アジア麺文化研究会という会がある。私は第2回「琉球ソバを食べる会」から参加したのだが、その時は沖縄の食文化の話(香蘭女子短期大学西装助教授)を聞き、実際の調査(沖縄料理の試食)を行った。「福岡に色々なアジアの麺が食べられるところを」とか「赤字を抱えている第三セクターがやってる〇〇〇をアジアの食文化を堪能し遊ぶところに……」などなど大きな野望が渦巻いているのだが、もっぱら私の興味は、麺だろうが、米だろうが、「うまい物が食べたい!」というところにある。

その会で知り合った、県立図書館の竹下その子さん に誘っていただき、うまいソバを食べに海外(海を渡って)の下関まで行って来た。

その店「あ三吾」は、下関駅前のシーモール下関地下1階にあった。総勢9名、緊張の面持ちでカウンターのみの席に着くと、新潟のおいしいお酒「 / 張鶴」がふるまわれ、私の期待はムクムクと膨らんできた。

また、一発目でメロメロにされた私は、次から次へ と出てくる料理を一層美味しく感じることができた。

ソバの実を入れたミソ(これは買って帰り、ご飯に混ぜておいしくいただいでいる)やソバがき、鴨南、ザルそば、最後にソバ団子……。大将曰く「いいそば粉を使ったソバを、一番いい状態で食べて欲しいという思いからカウンター式にした。作って、お盆にのせて、運ぶような時間のかかる座敷形式では、ソバの味が落ちる」とのことで、大変な気の使いようだった。

目的が食だと、行動が早く、盛り上がりやすいのは、 日本の文化だろうか。今回参加したメンバーが集まる きっかけもアジア麺文化研究会だった。人間(私の)の 食へのこだわりに感心したのだった。 (澤谷真紀子)



うまい酒で顔を赤くしながらうまいソバを食う

## 翻 じねん亭の迷惑便の迷惑文

こんな見出しをつけた手紙と迷惑便(甘夏みかん) を、あちこちに送って迷惑をかけています。というの は、私の住まいには甘夏が6本、八朔が2本、伊予かん が1本あります。みんな私ではなく、先に住んでおられ た方が植えられたものです。いずれも日当たりの良い 緩斜面に植わっているので、なかなかの味です。4~5 キロの箱をうん十カ所に送り、来られた方に持って帰 っていただいているのに、まだ沢山残っています。

今年の農業は、2~3月にジャガイモを、3~4月に鬱 金(少し)と里芋を植えます(4月16日)。 ラーララ

遂に耕耘機(8馬力)を買ったので、畝たてはトラク ターを借りずに自分の機械でやっています。

- 石臼も買いました。ちょっと小振りですがそば粉は 挽けます。4月16日と5月27日に打ちます。

労働力不足の農業なので、このあと予定している作 物は、黒豆、サツマイモ、蕎麦などです。今年は自然 農法の勉強もしたいと思っています。 (糸乗 貞喜)

## 



が実際はおっちょこ

ごしたことになる。中学・高校は一貫教育の学校だっ た。ここで初めてのクラス替えも経験した。1学年200 人弱という人数は私にとっては十分に多い人数だった が、小学校時代の同級生に「1学年200人しかいないの! うちの学校なんてもっと多いよ。」といわれ、ショック を受けた。でも、4クラス編成の学校のおかげでほとん どの人と同じクラスになることができた。もちろん、か けがえのない友達がここで多くできたことは言うまで もない。

そんな友達とも別れ、通うことになった福岡県立大 学。「大学は、校舎がたくさんあって敷地が広いものだ」 という理想とは遠い学校だったが、私にとっては最高 に楽しい場所だった。昔の私を知っている人がいない ことに味を占め、自分を隠すことなくやりたい放題や った。大学でのイベントの企画スタッフになったり、学 生自治会で地元のいろんな行事(川渡り神幸祭・シン ポジウム等)に参加させていただいたり。こんな風に やりたい放題しているおかげで、私が知らなくても、私 のことを知っている人が大学にはたくさんいた。学年 を、そして学科を超えてたくさんの刺激をもらえる仲 間にも出会えた。

そしてこのたび、4月からお世話になることになった 会社もまた『ちいさなどころ』だった。入社すること が決まったとき、先輩の言葉を思い出した。「大学」が 「会社」に変わって。私が「ちいさいところ」をよんで いるのかな・・・なんで思ったりしている今日この頃。自 分を精一杯生かすことができるように、今までに出会 った仲間からもらったパワーを糧にがんばります。

(梶原 里香)

#### ちいさなところ

大学生になったばかりの頃、東京の大学に通ってお られた高校時代の先輩に電話をした。「第一志望の大学 に入れず、学生数約600人の小さな大学に通うことに なった」と。私の話を聞いた先輩はこうおっしゃった。 「そんなちいさな大学のほうが、あなた自身を思いっき り生かすことができるような気がするな。」

思い起こしてみれば、私は本当に「ちいさなところ」 に縁のある人間だ。保育所、小学校はずっと同じ顔ぶ れだった。36人しかいない学年だったので、クラス替 えなんてない。長い人で9年間、同じ教室で同じ時を過 (4) 14 (1) 14 (

医克萨特特氏 经收益 医电影 医电影

SHE BOLD ON A SECOND OF SHE

よかネット No.45 2000. 5



## [長崎ぶらぶら節] マッカー

なかにし礼著 文芸春秋

## ●愛八姐さんと著者の思いに2度の感動できる本

言わずと知れた、昨年度の直木賞受賞作品だ。今更とは思われるかもしれないが、受賞後の雑誌や新聞でのインタビュー記事などを読むと、一層、この作品が愛おしいものに思えてくる。ちなみにラストのシーンでは私の涙は止まらなかった。

私共は、まちづくりのお手伝いをさせていただいている関係で、まず最初に、必ずその地域の良いところや悪いところなどについて調査する。それは頭を使うこともあるかもしれないが、多くは、足で稼ぐことを基本としている。色々な方に意見をうかがったり、実際に自分の目で見て確かめることが重要だ(なかなか難しいが……)。とにかく、私などはフットワークと頭の軽さだけがセールスポイントだと思っている。

私が著者のインタビュー記事などを通して感じたのは、この人は「これはおかしいぞっ!」とピーンと感じたら、すぐさま問題解決のために口や足が動いているということだ。また、直感的に「おかしい」と思う能力(努力かもしれない)も優れている。

例えば、オール読物の村松友視氏との対談では、長崎ぶらぶら節の愛八に興味をもったきっかけについて、「何枚かのレコードを聴いていると何枚目かにいいなって思う昭和六年発売のレコードがあり、それが長崎検番愛八と書いてある。レコードが珍しい時代になんで年増芸者のレコードがビクターから発売されるのだろうと直感的に思う」といっている。また、すぐさま長崎辞典を開き、花月(著書に登場する料亭の名前)に電話する。その後、長崎に何度か出向き、色々な人に話を聞き、愛八と古賀先生にひかれ、それが文章となる。

また、同雑誌で著者はこのようなことも言っている。 「僕は柳の下で二匹目のドジョウを狙わないほうなんです。だから、ヒット曲のバリエーションも結構広いんですね…」と。 このような、直感的に「おかしいっ!」と思う感覚 とフットワーク、二番煎じはしないという意志は、私 も意識して持つようにしたい、と思った。

(澤谷 真紀子)

## 〈第3セクター研究会からのお知らせ〉

昨年の7月から、九州の第3セクターや市町村財政のことを調べてみようということで、伊東弘文教授(九州大学経済学部)を中心に研究会活動を行っています。

これまでの活動を整理すると、

- ・経営破綻第3セクターの実例報告
- ・まもなく事業を開める第3セクターB社の経営 ・まもなく事業を開める第3セクターB社の経営
- ・連結会計でみる自治体のバランスシート 今後の活動予定として、
  - ・空きビルを無理なく再生させた事例研究
- ・優良経営の第3セクターの事例研究
- ・破綻処理の事例報告(九州内から)などが挙がっています。

〇テーマ

次回の研究会を以下のように予定しています。 興味のある方は当社の尾崎、糸乘までご一報を。

「みんなに喜ばれるリフレッシュ施設を目指して~ 八女市べんがら村の事例研究」

○日時:平成12年6月10日(土)13時くらいから ※)当日は客の立場でみてみるということで、施設 利用(温泉・レストラン)も予定しています。

## 九州大学学術研究都市構想シンポジウム

21世紀最初の大学移転を行う九州大学を核とし た学術研究都市づくりが進められており、平成12年 度策定予定の構想の中間報告が行われる予定です。

日時:平成12年6月1日(木)14:30~17:30

場所:福岡銀行本店大ホール

主催:九州大学学術研究都市推進協議会

基調講演(伊藤滋慶応義塾大学教授)、パネルディスカッションなど

## 第8回よかネットパーティのご案内

人と人との交流の輪づくり "人もうけ" をする会として毎年開催していますが、今年で8回目をむかえることとなりました。みなさんに食べさせたいうまいモノやうまい酒、聞かせたい面白い話などをご持参のうえ参加下さい。

日時: 平成12年5月27日(土)13:00~16:00

※時間内に自由におこし下さい。

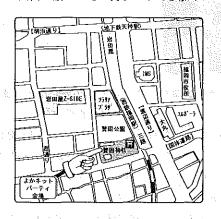
場所:警固神社境内 西側棟

福岡市中央区天神二丁目2-20

TEL: 092 - 771 - 8551

- ○ご持参していただくものは、調理済みのものを お願いします。盛りつけもご協力ください。
- ○当日参加者リストを作成いたしますので、名刺をお持ちください。
- ○参加される方には、有田焼のお皿を用意します ので、600円ご負担くださいますようお願いい たします。お皿はお持ち帰りいただけるような ものをつくる予定です。(お釣りのないようご 協力ください)
- ○参加ご希望の方は、当事務所までご連絡くださいますようお願い申し上げます。また、何かご 不明な点があれば、なんなりとお問い合わせく ださい。

of the graph to the first of the second terms of



※去年のよかネットパーティー



面白い話、美味いお酒、美味いつまみで 語り合う

#### 編集後記

**圏**4月16日糸乘農園にて芋植え会があり、小生と尾 崎は下準備とヘボ碁とを兼ねて前日からじねん邸 に泊まり込みで参加させていただいた。

芋植えは小1時間で終わり、その後はじねん邸の前庭にて春を満喫する美味しいものをいただき、本当に幸せな気分に浸ることができました。その美味しいものとは志摩の朝市で仕入れたカレイと甲イカの造り、ヤリイカの煮物、朝堀のタケノコ(アジア麺研究会の西表先生)、取り立てのクレソン、近くの海岸で捕ったモズクもどき、タラの芽とヨモギの天ぷら(糸乘知人の山本氏)、鯛めし、糸乘農園産の蕎麦で創った手打ち蕎麦など……。

この日は、味付け調理したものよりも自然のタケノコ、クレソン、モズクもどきといった材料費のかかっていない新鮮な地のものが特に美味しく、機会あればまた、是非お願いしたい一品であった。

よかネット NO.45 2000. 5

(編集・発行)

㈱九州地域計画研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ5F TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

E-mail:arpak@mx2.alpha-web.ne.jp

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-6942-5732

名古屋事務所

TEL 052-265-2401

東京事務所

TEL 03-3226-9130

(だ)